

香川県におけるアオバズク *Ninox scutulata* の営巣状況と食性

野口 和 恵

〒760-8522 香川県高松市幸町1-1 香川大学大学院教育学研究科生物学教室

Nesting situation and feeding habit of the brown-hawk owl, *Ninox scutulata*,
in Kagawa Prefecture, Japan.Kazue Noguchi, Biological Laboratory, Postgraduate Course, Kagawa University,
Takamatsu 760-8522, Japan.

摘 要

香川県の石清尾八幡神社において、アオバズクを観察し、営巣状況を調べた。営巣木はクスノキで、幼鳥4羽が巣立った。また、残し餌を採集し、アオバズクの食性を明らかにした。内容物は、昆虫綱5目18科54種および哺乳綱翼手目1種から成り、全採集数は1442であった。残し餌の採集数は2山型に変化した。残し餌の目構成は巣立ちの前後で変化し、鱗翅目および鞘翅目からおもに半翅目になった。また、残し餌中で高い割合を占めた科は、スズメガ科、ヤガ科、コガネムシ科、カミキリムシ科、およびセミ科であった。

はじめに

アオバズク *Ninox scutulata* は、夏鳥として日本に渡来し、繁殖する。昆虫を主食とし、習性として飛翔中の昆虫を捕らえ、電柱や枝にとまって頭部や翅をむしりとりて落とす(小林, 1976; 谷口, 1983)。その食痕を残し餌といい、これまで佐賀県(谷口, 1983)、神奈川県(飯村, 1984)、および石川県(富沢, 2001)でその内容物が調査されている。

そこで、香川県においても残し餌を採集し、

アオバズクの食性を明らかにした。また、営巣状況として、営巣木および幼鳥数を報告する。

調査地および方法

調査地は、高松市宮脇町1-30-3 石清尾八幡神社(東経134度02分、北緯34度20分)である。境内は人家に囲まれ、裏手は山(雑木林)の斜面である。境内の樹種構成は、エノキ *Celtis sinensis* Pers., クスノキ *Cinnamomum camphora* (L.) Presl, ムクノキ *Aphananthe aspera* (Thunb.) Planchon, アラカシ *Quercus glauca* Thunb., およびイチヨウ *Ginkgo biloba* L. などである。調査期間は、1999年6月1日~9月18日で、1~2日ごとに境内に通った。

7月の1ヶ月間、アオバズクの観察を日没30分前から日没30分後まで行った。成鳥が出入りした樹洞のある木を営巣木とした。営巣木の樹高、胸高直径および樹洞の高さを、巻尺と樹高計(牛方商会製アルティ・レベル)を用いて計測した。

境内に散乱していた、昆虫の頭部・胸部・鞘翅、および哺乳類の前肢等の動物遺体を残し餌とみなした。採集した残し餌は、種ごとに頭部、胸部、左右の上翅あるいは前後翅に分け、最も多く残っている体の部分の数をその種の採集

数とし、5日ごとに合計した。

結 果

観察時に、成鳥2羽がクスノキ *Cinnamomum camphora* (L.) Presl の樹洞に頻繁に出入りしていたことから、この木を営巣木とみなした。営巣木は2本のクスノキが根元でつながっており、樹洞のある木の樹高は13.2m、胸高直径は1.28mで、樹洞の高さは6.4mであった。もう1本の樹高は16.5m、胸高直径は0.71mであった。7月23日19時23~27分に、成鳥2羽以外の3羽が樹洞から出た。7月31日の昼間に、成鳥2羽と幼鳥4羽を確認したので、4羽の幼鳥が巣立ったとみなした。1羽の巣立ちの日時は不明である。

残し餌の採集数は2山型に変化した(図1)。採集数が減少したのは、巣立ちの前後の頃であった。

残し餌は、昆虫綱5目(鱗翅目、鞘翅目、半翅目、

翅目、直翅目、および蜻蛉目)18科54種、および哺乳綱翼手目1種(種は不明)から成り、全採集数は1442であった(付録1)。

残し餌の目構成は巣立ちの前後で変化した(図1)。巣立ち前はおもに鱗翅目と鞘翅目であったが、巣立ち後はおもに半翅目となった。

残し餌のうち最も出現頻度の高い5科は、鱗翅目のズメガ科とヤガ科、鞘翅目のコガネムシ科とカミキリムシ科、および半翅目のセミ科であった。これら5科が残し餌の93.4%を占めた(付録1)。

考 察

小林(1976)および大庭(1997)によれば、アオバズクの巣立ち時期は7月末頃で、1腹卵数は2~5個である。したがって、石清尾八幡神社におけるアオバズクの巣立ち時期(7月23日)と幼鳥数(4羽)は、これまでの報告と違いはなかった。

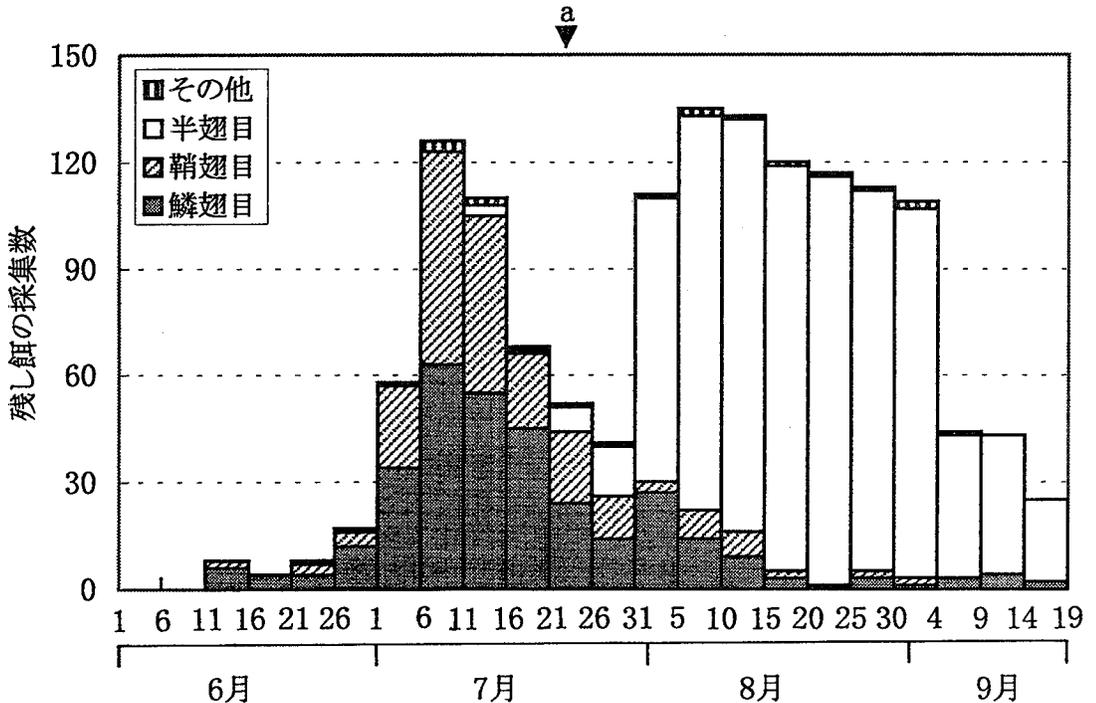


図1. 石清尾八幡神社における、アオバズクの残し餌の目別の採集数の変化。ぬりつぶり、鱗翅目；斜線、鞘翅目；空白、半翅目；縦線、その他。a, 幼鳥の巣立ち日。

残し餌の採集数は、アオバズクの行動とその範囲に影響される。今回、2山型(図1)になったのは、巣立ちの前後でアオバズクの生息場所が変化し、残し餌を発見できなかったからである。また、アオバズクの行動範囲は境内を越えていたので、すべての残し餌を採集できていない可能性がある。したがって、残し餌の量的分析は難しいだろう。

残し餌の目構成は、巣立ちの時期を境に変化した(図1)。このことを佐賀県(谷口, 1983)のデータに当てはめてみると、巣立ち前は鱗翅目と鞘翅目からなり、巣立ち後に半翅目が含まれていた(図2)。残し餌中の昆虫が発生し始める時期は、鱗翅目や鞘翅目では5・6月から、一方、半翅目では7月からである(江崎ほか, 1971; 林ほか, 1984; 伊藤ほか, 1977; 黒澤ほか, 1985; 上野ほか, 1985)。したがって、昆虫の発生時期にはずれがあり、それが残し餌の目構成の変化に反映したと考えられる。そしてそ

の時期が巣立ち頃なのであろう。石川県(富沢, 2001)のデータに半翅目が含まれていないのは、巣立ち後の残し餌を調査していないためかもしれない。

残し餌中で出現頻度の高い科について、佐賀県(谷口, 1983)および石川県(富沢, 2001)の報告をみると、スズメガ科、ヤガ科、コガネムシ科、カミキリムシ科、タマムシ科、およびセミ科であり、その多くが今回の結果と共通していた。これらの科は、夜間に飛翔する比較的大型の昆虫を多く含んでおり、アオバズクの狩りの行動や時間帯に合うものであろう。

謝 辞

本研究を行うにあたって、昆虫を同定して頂いた出嶋利明氏、増井武彦氏、三木武司氏、高木真人氏、その他瀬戸内むしの会の方々に御礼申し上げます。また、川口敏氏には研究内容について多くの助言を頂いた。最後に論文作成およ

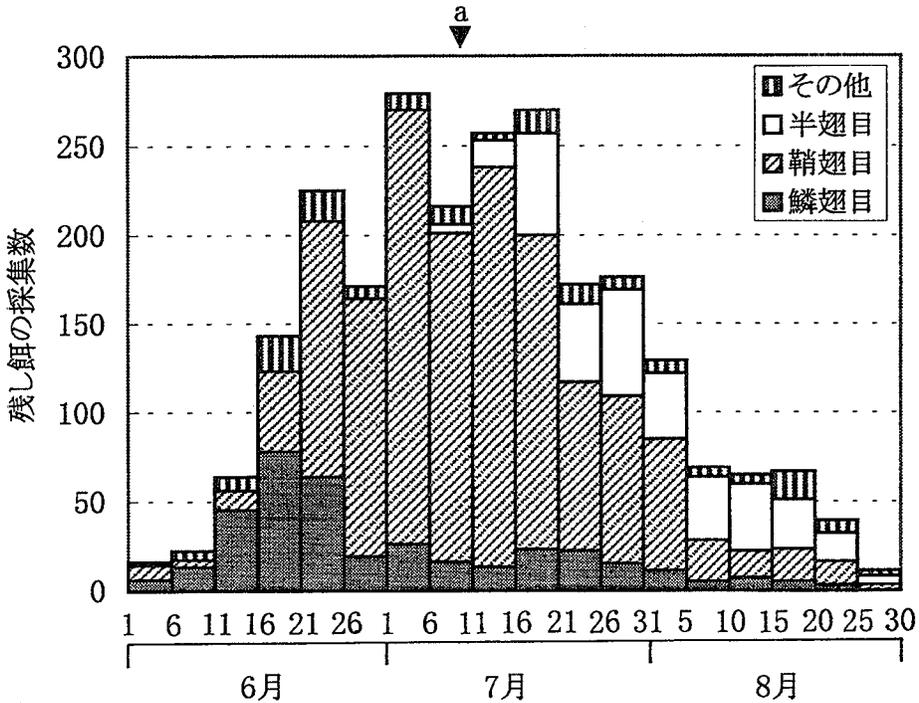


図2. 佐賀県における1981年の残し餌の目別の採集数の変化(谷口, 1983より作成)。ぬりつぶり, 鱗翅目; 斜線, 鞘翅目; 空白, 半翅目; 縦線, その他。
a, 幼鳥の巣立ち日。

び樹木の計測調査にあたり、御指導頂いた香川大学教育学部生物学教室の金子之史教授ならびに末広喜代一教授に感謝する。

引用文献

- 江崎悌三・一色周知・六浦晃・井上寛・岡恒弘・緒方正美・黒子浩. 1971. 原色日本蛾類図鑑(下)(改訂版). 保育社, 大阪. 304pp.
- 林匡夫・森本桂・木元新作. 1984. 原色日本甲虫図鑑(IV). 保育社, 大阪. 438pp.
- 飯村武. 1984. アオバズク *Ninox scutulata japonica* の繁殖生態に関する知見. 神奈川自然誌資料 5: 44-49.
- 伊藤修四郎・奥谷禎一・日浦勇. 1977. 原色日本昆虫図鑑(下). 保育社, 大阪. 385pp.
- 小林桂助. 1976. 原色日本鳥類図鑑(改訂版). 保育社, 大阪. 248pp.
- 黒澤良彦・久松定成・佐々治寛之. 1985. 原色日本甲虫図鑑(Ⅲ). 保育社, 大阪. 500pp.
- 大庭照代. 1997. アオバズク. 日高敏隆(監修), 日本動物大百科4鳥類Ⅱ: 39-40. 平凡社, 東京.
- 谷口一夫. 1983. 繁殖期におけるアオバズク *Ninox scutulata* の残し餌について. *Tori* 32: 145-152.
- 富沢章. 2001. アオバズクが捕食する昆虫について-「落とし餌」からの検討-. *STRIX*19: 121-127.
- 上野俊一・黒澤良彦・佐藤正孝. 1985. 原色日本甲虫図鑑(Ⅱ). 保育社, 大阪. 514pp.

